

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



運動あそびの大切さと大人の手助け・支援

子ども教育学部子ども教育学科 林 俊雄

最近の子どもたちは戸外で走り回って遊ばなくなったとか、体力や運動能力が落ち続けていってこのままではどうなってしまうのか心配だとか、そういった類の話を一度も耳にしたことがないという人はおそらくいないのではないのでしょうか。一昔前までは子どもは遊ぶのが仕事と捉えるのが一般的であり、遊びすぎて叱られることはまああっても遊ぶなことを心配されるなんてことはよほど特殊なケースを除いてはあり得ないことでした。

外で元気よく運動あそびをしないことがなぜ心配されるのでしょうか。運動あそびがどうして大切なのでしょう。一つには運動しなければ体力や運動能力が向上しないからだという事は確かです。学校で行われる体力・運動能力テストの成績は1985年頃をピークにずっと下がり続けてきたということをよく耳にしてきました。しかしこの数年は底を打った後少しずつ向上してきているし、昨年は新テスト移行後の最高値が出た項目もありました。でもこれはあくまでも平均値の話であって、できる子とできない子に二極化してきていることの方を問題にするべきだと思います。運動をよくする子どもとしない子ども、体力や運動能力の高い子どもと低い子どもの格差が大きくなってきているということです。小さい頃から運動あそびをしないといけないとか習慣化しないといけないというばかりでなく、なぜそのような格差が生じているのかということまで視野に入れておかねばならないと思います。

運動あそびは役割を決めたり、ルールを決めたり守ったり、お互いに協力して仲間を助けたりという社会性やコミュニケーション能力の向上にも欠かせない活動です。昔から遊びの成立条件として「時間・空間・仲間」（三つの間〔ま〕なので「さんま」とも言われてきました）が挙げられてきました。子どもに十分な運動あそびを保障してやるためには「さんま」の復活はもちろんですが、それに加えて大人の手助け（それを四つ目の間：「手間」という人もいます）が欠かせなくなっているのが現代社会の特徴になっています。子どもだけで遊ばせるには社会状況が危険すぎるから大人の見守りが必要だとか、都市部では豊かな自然環境が身近にないので大人が付き添って豊かな自然環境の地へ連れて行ってやらないといけないなどがその典型例でしょう。学校や幼稚園・保育所なども大人（教師・保育者）が手間をかけて整えなければならない運動あそび作り環境の一つだといえます。

この時代に、とりわけ健全な成長・発達にとって欠かすことのできない運動あそび環境に恵まれていない子どもたちのために、学校や園、そして行政機関、地域の人びと、保護者など大人たちがしてやるべき手間（支援）とは何か、広くいろいろな角度から社会全体でしっかり考えていきたいものです。